

2025 年 6 月 17 日  
プレスリリース No.004-25

## インドネシアの影絵人形芝居 ワヤン「鬼女となった姫」を上演します

静岡文化芸術大学 文化政策学部 芸術文化学科 梅田英春教授がダラン(人形操作・語り・謡)として出演する『ワヤン版「執心鐘入」 芸能の中で創作されるマハーバーラタ物語—天界と地上界を結ぶサティヤワティとアルジュナの秘話 鬼女となった姫』が上演されます。

ワヤンとは、インドネシアの影絵人形芝居の総称で、バリ島では古くから儀礼や娯楽として上演されてきた芸能です。ダランと呼ばれる人形遣いがさまざまな声音を駆使して人形を操り、伴奏にはグンデル・ワヤンという専用のガムランが使用されます。

本公演は、創作マハーバーラタの演目の調査・研究に基づき、新たな演目を創作して、上演する試みです。科学研究費「バリ島の影絵人形芝居ワヤンの創作演目に関する実践的研究(基盤研究 C 23K00195 代表:梅田英春)」の研究成果の一部です。

■『ワヤン版「執心鐘入」芸能の中で創作されるマハーバーラタ物語  
—天界と地上界を結ぶサティヤワティとアルジュナの秘話 鬼女となった姫』

【日時】2025 年 6 月 29 日(日曜日)午後 2 時開場、午後 2 時 30 分開演

【会場】静岡文化芸術大学 講堂(浜松市中央区中央 2 丁目 1-1)

【入場料】無料 全席自由

【お問い合わせ】e-mail : [h-umed@suac.ac.jp](mailto:h-umed@suac.ac.jp)



<本リリースに関する問い合わせ>

静岡文化芸術大学 企画室(担当:朝日)

Tel. 053-457-6113 / Fax. 053-457-6123

E-mail. [kikaku@suac.ac.jp](mailto:kikaku@suac.ac.jp)

公式 Web サイト



# 鬼女となった姫



芸能の中で創作されるマハーバーラタ物語

— 天界と地上界を結ぶ

サティヤワティとアルジュナの秘話

ワヤン版「執心鐘人」

karwi dalang

バリ島の影絵人形芝居

ワヤン・クリッ

Wayang kulit Bali



●安珍・清姫〜娘道成寺〜執心鐘人へとつながる物語から  
日本で新しく編み出された創作影絵人形芝居の物語！  
●果たして物語に隠されたサティヤワティの  
奇しくも切ない秘密とは…

鬼女となった  
サティヤワティ

美しい娘と変身した  
サティヤワティ

ロドラケサ王の娘  
サティヤワティ

〔日時〕

2025年**6月29日** (日) 14:00開場／14:30開演

〔会場〕

**静岡文化芸術大学講堂**

入場無料／全席自由

〔出演〕

●ダラン(人形操作・語り・謡)……………梅田英春  
●ダラン補佐……………錦織照子・長谷部匡  
●演奏……………サンディア・ムルティ

石田直泰 石塚千東 伊藤祐里子 植山視保子  
金子瑞絵 神谷知穂 菊池和泉 城島茂樹  
新留美哉子 根岸久美子 野村純子 増野亜子

本公演は科学研究費「バリ島の影絵人形芝居ワヤンの創作演目に関する実践的研究(基盤研究C)23K00195(代表:梅田英春)」の研究成果の一部である。

**ワヤン**とは、インドネシアの影絵人形芝居の総称で、バリ島では古くから儀礼や娯楽として上演されてきた伝統芸能です。様々な声色を駆使し人形を操るダランと呼ばれる人形遣いは、バリ島ではあるゆる物語や知識に精通する特別な存在として敬われています。伴奏は、グンデル・ワヤンと呼ばれる専用のガムランを使用します。

**マハーバーラタ物語**は、もはやアジアに止まらず、ピーター・ブルックや宮城聰の演出で現代演劇や歌舞伎の演目となってきました。インドからアジア各地に伝わったマハーバーラタ物語は、アジアでは古典文学という位置づけである一方、日々、新しい物語が創作されています。つまり古典文学は時代とともに増殖しているといってもいいのです。本公演は、創作マハーバーラタの演目の調査・研究に基づき、新たな演目を創作して、上演する試みです。

**ダラン(人形遣い)**

**梅田英春** Hideharu Umeda



1983年からワヤンの伴奏に用いるガムラン編成グンデル・ワヤン、84年からワヤンを学び始め、86年から88年までインドネシア芸術アカデミー、タバナン県トゥンジュク村でワヤンを学ぶ。現在は日本各地でワヤンの上演を行うほか、バリ芸術祭で創作ワヤンの上演も行う。現在は静岡文化芸術大学、文化政策学部教授。

**ガムラン演奏**

**サンディア・ムルティ**

Sandia Murti

バリの影絵芝居の伴奏に用いられるガムラン・パテルの演奏グループとして2006年に結成。「精鋭達が一堂に集まり、ひとつのことを成し遂げる」というグループ名のとおり、ふだんは関東・東海・関西でそれぞれ演奏活動を行うメンバーが集まって、影絵芝居や創作作品の上演活動などを行っている。



バリ島の影絵人形芝居ワヤンクリップ

ワヤン版「執心鐘入」物語

**[物語の背景]**……パンドワー族は、コラワー族より国の半分を与えられ、インドプラスタという王宮で長兄ユディスティラが王となり統治をしていたが、指南役クリシュナは、国を盛大にする儀礼の日までにユディスティラの弟アルジュナとビマそれぞれに11種類の特別の花、11種類の奇妙な動物を探してくるよう命じたのだった。二人はそれらまだ見ぬ花や動物を求めて国を出発するが……。

**第1幕……アルジュナの帰路**

アルジュナはなんとか11種類の花を探し出し、それらを枯らさないよう帰路につくが、すっかり日が暮れてしまい、一夜の宿を求めることにしたのだった。

**第2幕……ロドラケサとサティヤワティの約束**

グリヤナワ国王ロドラケサには大きな悩み事があった。それは年頃の娘サティヤワティが夢に出てきたアルジュナに恋してしまい、他の男性には誰一人興味を持たないからである。しかたなく、ロドラケサは娘の願いを叶えるためにアルジュナを探す旅に出る決意をするが、その間、絶対に家の外に出ないこと、そして誰が来ても扉を開けてはならぬことをサティヤワティに約束させる。

**第3幕……運命の出会い**

一夜の宿を求めてアルジュナがたどりついた家は、サティヤワティが留守を守るロドラケサの家だった。サティヤワティは、父との約束を守り、一旦はアルジュナの願いを断るが、それがアルジュナであることを知った途端、自身の姿を美しい女性に変身し、アルジュナを迎え入れる。そして愛の告白をし、求婚する。だが、突然の言葉に驚いたアルジュナは、それを丁寧に断るのだった。

**第4幕……アルジュナを追うサティヤワティ**

王宮に戻ったロドラケサは、娘の請願を断ったアルジュナに激怒し、激しい戦いになる。隙をみて逃亡するアルジュナをサティヤワティは執拗に追いかける。

**第5幕……サティヤワティの鐘入り**

逃げてきたアルジュナは、森の奥にある僧侶たちが修業する寺に匿ってもらう。そこに訪れたサティヤワティは、寺中を隈なく探すアルジュナを見つけることができず、最後に残った大きな銅鐘(ゴング)の中に入ってさらに探すのだった。

**第6幕……情念の鬼女**

銅鐘から現れたサティヤワティは、深い情念によって鬼女の姿となっていた。そして、高僧ケサワに怒りをぶつけると、ケサワもまたその怒りの姿へと変身し大乱闘となるが決着はつかず、最後にケサワがアルジュナを呼ぶ。そしてアルジュナの放った矢が鬼女の胸に深く刺さったとき、そこには驚くような展開が……。

**[公演日]** ●6月29日(日)

**静岡文化芸術大学・講堂**

浜松市中央区中央 2-1-1

<https://www.suac.ac.jp/>

◆交通アクセスは上記の本学ホームページをご覧ください。

◆駐車場はございませんので、お車でお越しの方は近隣の有料駐車場等をご利用ください。

**[お申込み方法]** ……………

右のQRコードを読み取りいただき、「予約フォーム」画面にアクセスの上、指定の必要事項をご入力いただき、お申し込みください。



**[お問合せ]** ……………

e-mail: [h-umed@suac.ac.jp](mailto:h-umed@suac.ac.jp)

